

## 〔水稻〕

### 1. 作付の概況

九州における平成 28 年度の主食用作付面積は、16 万 1,300ha で、前年産に比べて 5,000ha 減少した。品種毎の作付面積を見ると、「ヒノヒカリ」や「コシヒカリ」は近年変動が小さく、それぞれ九州の作付品種の 47%と 10%を占めた。その他、「夢つくし」、「元気つくし」、「さがびより」、「夢しずく」、「にこまる」、「あきほなみ」、「森のくまさん」、「つや姫」、「おてんとそだち」、「なつほのか」、「ひとめぼれ」など県毎に多数の品種が作付けされている。

### 2. 作柄の概況

6 月が日照不足傾向であったものの、8 月中旬まではおおむね天候に恵まれたため、全もみ数は一部を除き平年を上回った。その後、日照不足傾向で経過したものの、登熟はおおむね順調であったことから、10 a 当たり収量は、九州は 507 kg（全年産に比べ 23 kg 増加）となった。九州全体における作況指数は「101」で「平年並み」であった。県別の作況指数では、福岡、佐賀、大分、宮崎と鹿児島が「100」で沖縄が「101」の「平年並み」で、長崎が「104」と熊本が「102」で「やや良」であった。

### 3. 生育の概況

#### 1) 普通期水稻

梅雨明け以降、高温多照で経過し、九州各県ともに穂数及び 1 穂当たりもみ数が「多い」ないし「平年並み」となった。出穂以降も比較的高温で経過したものの、9 月上旬以降、日照不足で経過したこと、また相次ぐ台風の通過及び秋雨前線に伴う風雨による倒伏等があったことから、熊本県及び大分県は「平年並み」、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県及び鹿児島県は「やや不良」となった。

#### 2) 早期水稻

主産県である宮崎県においては、田植期以降の日照不足の影響で穂数が少なかったこと、鹿児島県においては、登熟期前半までの日照不足及び風雨や登熟期後半の高温、また、一部地域でのいもち病の拡大も影響し登熟が「やや不良」となった。作柄は、宮崎県が 10 a 当たり収量 461kg（作況指数「97」）、鹿児島県が同 429kg（同「96」）となった。

### 4. 被害の概況

早期栽培では、気象被害として、日照不足の影響による分けつの抑制、登熟期前半の風雨による倒伏に加え、登熟期後半の高温の影響による登熟不良がみられた。病害では、いもち病、虫害等ではスクミリンゴガイ及びカメムシの発生が見受けられた。総体的に被害は平年

に比べ、やや多くなった。

普通栽培では、登熟期の日照不足による登熟の抑制、台風第 16 号の上陸に伴う冠水・倒伏、また秋雨前線に伴う風雨による倒伏・穂発芽がみられた。病害としては、いもち病及び紋枯病、虫害等ではカメムシ及びトビイロウンカが平年並みからやや少ない発生となった。総体的に被害は平年並みないしやや少ない発生となった。